

# 自主ゼミナール 現代社会と仏教

## 第2回 Zoom 安居（あんど）

### 「どうなる!?!どうする?これからの寺院」

#### ～コロナ禍における差別問題とグリーフケア～

令和2年6月29日(月・友引前日)午後6時～8時

管理人:栃木県 浄土宗一向寺住職 東好章

パネリスト:福島県 浄土宗菩提院副住職 霜村真康 さん

パネリスト:福島県 曹洞宗昌建寺住職 秋 央文 さん

パネリスト:一般社団法人リヴオン代表 尾角光美 さん

パネリスト:長野県 曹洞宗東昌寺住職 飯島恵道 さん

パネリスト:hasunoha 代表 堀下剛司

司会:長野県 浄土宗玄向寺副住職 荻須真尚

スタッフ:勝桂子・鶴飼秀徳

#### 【開催趣旨】

新型コロナウイルスの発生、世界中での流行により、社会システム全体で大きな影響が出ています。

日本においては、非常事態宣言が解除されたとはいえ、感染者数が0になった訳ではなく、まだ感染者は確認されており、今後やって来ると感染症の専門家からいわれている、第2波・第3波の到来が懸念されています。

この新型コロナウイルスは、誰もが感染する可能性があります、そうした中で、新型コロナウイルスに感染した方、感染者の家族、あるいは感染者の治療にあたる医師や看護師等の医療従事者に対する、偏見や差別が出ています。

一例として、長野県松本市では松本保健所管内で初めて確認された60歳代男性について、多くのデマが流れ、結果として、全く別人が標的となり、その人が経営する会社へ嫌がらせ電話や苦情メール等が相次ぎ、業務に支障をきたすことになりました。その方が警察に被害届を提出し、ツイッターでデマを拡散した50歳代男性は逮捕されましたが、「知人から噂話を聞いて、発信しないといけないと思い、書き込んでしまった。」と答えたとのことで、デマを広めた本人は「悪いこと」という意識はなかったようです。また、山梨県では感染が確認された後、高速バスで上京、帰宅した20歳代女性が、多くの人に批難され、実家には嫌がらせが相次いだとの事例がありました。

これらは、「コロナ差別」と呼ばれ、新しい差別問題が生じています。

この「コロナ差別」問題について、私達僧侶はどう考え、行動したらよいのか。

それについて、東日本大震災の津波によって引き起こされた福島第一原発事故による、「放射能差別」問題に取り組んでこられた、福島県の浄土宗菩提院副住職の霜村真康と同じく福島県の曹洞宗昌建寺住職の秋央文さんのお2人より、第1部「コロナ差別」～東日本大震災そして福島原発事故による放射能差別から考える～と題して、「放射能差別」と「コロナ差別」の共通点・類似点と相違点、差別を防ぐために必要なことについてお話いただきます。

また、新型コロナウイルスが原因でお亡くなりになられた方、あるいはコロナが原因ではなく、別の病気で入院していた患者さんや、老人施設に入所していた高齢の方が、コロナ感染を防ぐため、家族であっても面会禁止となり、半年以上会えないまま、お亡くなりになり、亡くなった本人の気持ち、遺された家族の気持ちには、平常時の「死」とは異なる状況が生じています。コロナ発生・流行前よりも、現在の方が、多くの人々が「生と死」を強く意識するようになっていきます。

このような時に、僧侶として、どのように遺族と接するべきか。

第2部「グリーフケア」～コロナ流行時の葬送～と題して、遺族の立場と僧侶の立場という、二方向から考えてみます。

遺族の立場からは、一般社団法人リヴオン代表の尾角光美さんより、僧侶の立場からは長野県の曹洞宗東昌寺住職で、看護師としてお勤めの経験もある、飯島恵道さんよりお話いただきます。

さらに、現在 hasunoha に寄せられている人々の相談事について、堀下よりお話いたします。

悩み、苦しみを抱えた人に、私達僧侶はどのように寄り添い、支えるべきかを考えていきましょう。

## 【本日の安居 次第】

1. 主催者挨拶
2. 新型コロナウイルスにてお亡くなりになられた方への追悼 合掌・礼拝・黙祷
3. 開催趣旨 説明
4. パネルディスカッション

今回は、「コロナ差別」と「グリーフケア」の二部構成とする。

基本的に、パネリストと司会が話す形で進行する。

その話をお聴きになり、気づいたことや聞いてみたいことがあれば、チャット機能を使って参加者が入力する。

それを司会が拾い、パネリストに質問する形をとる。

前回のまとめ：コロナ禍において、寺院・僧侶はどうするべきかについて、【布施】をキーワードに考え、論じた。  
ここでは、【目的】〈何のために〉について話し、【手段】〈どうやって〉については触れなかった。

今回のテーマ：「どうなる!?どうする?これからの寺院」～コロナ禍における差別問題とグリーフケア～  
キーワード：「布施」の中の「無畏施」 仏教の「布施」、特に「無畏施」の考えに基づき、問題を考える。

「無畏施」＝ 怖れを取り除く

「無財の七施」＝ 布施行の一種で仏教徒が心がけなければならない態度（『新纂浄土宗大辞典』より）

- ① 眼施 — 相手を憎むことなく、好ましい眼差しで接すること。
- ② 和顔悦色施 — 和やかな喜びの顔で接すること。
- ③ 言辞施 — 相手に柔らかい思いやりのある言葉をかけること。
- ④ 身施 — 相手を敬い、我が身を惜しむことなく、他に尽くすこと。
- ⑤ 心施 — 善い心で相手の立場にたち、心をかけていくこと。
- ⑥ 床座施 — 相手に座席を設けたり、譲ったりすること。
- ⑦ 房舎施 — 自分の家を一夜の宿として提供すること。

言葉の持つ力 — 人を傷つけることもあれば、人を励まし、和ませ、癒すこともできる。

### 第1部 「コロナ差別」について

仏教用語 差別【しゃべつ】（『岩波仏教辞典』第二版＜岩波書店、1989年＞より）

区別、相違といった意味のほか、現象世界のすべてが区々別々であり、多様なものとして存在していることをいう。

とくに、法の立場から万物が一如であるとする見方にたいして、個々の存在があくまで独自で、それぞれが異なるすがたを持っていること。

一般使用の差別【さべつ】（『広辞苑』第五版＜岩波書店、1998年＞）

- ① 差をつけて取りあつかうこと。わけへだて。正当な理由なく劣ったものとして不当に扱うこと。
- ② 区別すること。はじめ。
- ③ ⇒【しゃべつ】① [仏]万物の本性が平等であるのに対し、それぞれの個物が具体的な差異をもっていること。
  - ② 相違。区別。
  - ③ 分別。

「自己」と「他者」とを区別したところから、「差別」は始まる。

自分が知らないもの「未知」なるもの・わからないものへの恐怖・不安 ⇒ 「差別」する気持ちを増長する

[メモ]

Hasunoha に寄せられた質問内容について  
[メモ]

## 第2部 「グリーフケア」～コロナ流行時の葬送～について

「グリーフケア」とは

「大切な人やものを失ったときに生まれてくる、その人なりの自然な反応や、感情、プロセス」  
(尾角光美 『なくしたものとつながる生き方』<サンマーク出版、2013年>より)

[メモ]

パネリストの皆さんと、ディスカッション(討論)

[メモ]

## 5. 質疑応答

6. まとめにかえて 【釈尊のことば】を紹介して、今回の Zoom 安居を閉じる。

「スッタニパータ[釈尊のことば] 全現代語訳」(講談社学術文庫、2015年)より

第三章 大いなる章 第三経 よい言葉

釈尊 (450) 「よい言葉が最上であると立派な人々は語る。

道理を語れ、道理に反することは口にするな、これが第二である。

心地よいことを語れ、不快なことは口にするな、これが第三である。

真実を語れ、虚偽は口にするな、これが第四である。」

仏弟子ヴァンギーサ尊者 (451～454)

(451) 「自己を苦しめず、他人を傷つけない言葉のみを語れ。これこそがよい言葉である。

(452) 相手が嫌悪することには触れず、相手に喜ばれる心地よい言葉のみを語れ。

(453) 真実是不滅の言葉であり、永遠の道理である。真実と有益さと道理とに立脚して立派な人々は言葉を語る。

(454) 苦しみを終わらせ、涅槃を達成するためにブッダが語る安らかな言葉こそが最高の言葉である。」

## 7. 主催者挨拶 ・ お知らせ ・ お願い

① 一般社団法人リヴオン様への寄付のお願い

② 感想文 寄稿のお願い

③ Zoom 安居 運営費 寄付のお願い

④ hasunoha 回答者 募集のご案内

次回の予定 「地域のお寺について」